

大学

健康医療科学部 医療貢献学科 視覚科学専攻
生理光学演習

望月 浩志 教授、野上 豪志 講師

視力検査や屈折検査などを実践し、
医療人としての思考力や対人力を磨く。

視能訓練士は、眼の多様な検査・評価、弱視や斜視の訓練などに携わり、人々の「見る」を支えるスペシャリストです。その養成に力を注ぐ視覚科学専攻では、2年次から検査に関する演習がスタート。「生理光学演習」では視力検査をはじめとする光学的な検査の基本を学びます。学生は1年次に修得した生理光学の知識、眼の構造や光の屈折などの理論をベースに、視力や屈折度数などの検査を実践。指導教員の望月先生は、検査結果を多角的に分析する科学的思考力や、患者さまとのコミュニケーションの大切さを伝えます。「学生同士で主体的に検査し合う時間を設けています。医療人としての思考力や対人力を養い、卒業後、眼科検査や訓練、ロビージョンケア、研究などの幅広い分野で活躍してほしいと願っています」と望月先生。臨床現場を見据え、学生の学びや成長を後押ししています。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

高等学校

愛知淑徳高等学校
数学Ⅲ

高井 直美 教諭

解き方は、ひとつではない。
自分の頭で考える力が、道を拓く。

高校2年生・理型クラスの「数学Ⅲ」では、大学受験に直結する科目である数学Ⅲの基礎力の養成を大切にしています。担当教諭の高井先生が授業で重視するのは、解き方が複数考えられる問題では必ず別解を解説すること。「授業で学ぶ理論は、数学の問題を解くための『道具』です。道具を自分でしっかりと扱い、さまざまな解き方を考えることが、多様な問題に対応できる力になります。そこに、数学のおもしろさがあると私は感じています。すぐに答えを求めるのではなく、紆余曲折すること、試行錯誤や失敗を重ねることが、自分を育てることにつながりますから、何事も自分で考え、道を拓いてほしい」と高井先生。大学受験を突破する力だけでなく、「自分の頭で考える」という人生のあらゆる場面で重要になる力も、数学を通して鍛えてほしいと生徒の将来に思いを寄せています。

